

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4072000336		
法人名	医療法人 幾嶋医院		
事業所名	グループホームゆとり庵		
所在地	福岡県柳川市田脇760-1 (電話)0944-75-6002		
自己評価作成日	令和5年9月29日	評価結果確定日	令和5年12月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

外出の機会を持つ。
散歩や外出、地域の方々との交流の場を多く持つようにしている。
利用者に寄り添い、本人の行きたいところや、食べたい物を提供し、
ゆとり庵での生活が安心して過ごして頂けるように支援している。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和5年10月19日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、田園風景が広がる自然豊かな場所に位置し、1階建ての建物で、日本庭園を眺めることができる。ベランダで利用者と職員と一緒に洗濯物干しをしたり、天気の良い日はお茶をして外を眺めている。敷地内に医院があり、日頃から医師と密に連携をとり、緊急時の対応や看とりを実施している。外出の機会が多く、最近では全利用者で川下りに行き、利用者が大変喜ばれた。利用者の気持ちを第一に、職員が明るく接しており、理念である「私や家族が利用したいと思う施設」を目指して取り組んでいる。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の目の付く所に掲げて共有し、一人一人が理念を確認する。	「私や家族が利用したいと思うような介護施設をつくりたい」という事業所独自の理念がある。玄関や廊下に理念を掲示し、朝礼時に理念を唱和している。理念に地域密着型の視点は含まれていないが、地域の清掃活動に参加したり、散歩時に地域住民に挨拶をする等、日々地域密着の実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月1回地域のゴミ拾いに参加している。	地域活動で、利用者と一緒に地域のゴミ拾いに参加している。買い物や散歩の際には、近隣の人に挨拶をする等、積極的に関わりをもつようにしている。コロナ禍前は事業所主催でふれあい祭りを開催し、地域住民と交流していた。今後は感染状況を見ながら、ふれあい祭りの開催等、地域との交流の機会を作る予定である。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は行事ごと案内を出し参加して頂いたがコロナの為出来ていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度地域運営推進会議を行い報告や話し合いをしています。意見や質問を聞き、サービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催している。利用者やサービスの状況、職員研修、職員会議の内容等について報告している。ヒヤリハットや事故報告について、質問や助言があり、出された意見をサービス向上に活かすようにしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月に1度の地域運営推進会議に参加して頂き情報交換を行っている。	行政とは電話連絡を中心に、報告・連絡・相談を行い、必要に応じて窓口に出向いている。行政からの意見を取り入れて、サービスの向上に活かすように努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に1回研修を受け職員で改めて確認をしている。	玄関は防犯のため施錠しているが、玄関の鍵は利用者が開け閉めすることができる。居室や庭への出入口は施錠していない。外出傾向のある利用者には、職員は見守りや付き添って散歩や買い物に行っている。年1回、身体拘束に関する内部研修を開催している。身体拘束に関するマニュアルを作成している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	年に1回研修を受け職員で確認している。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	月1回の会議で議題として取り上げ理解を深めている。	権利擁護に関する制度について、必要時に家族に説明している。研修は実施していない。	権利擁護に関する制度について、外部研修に参加したり、内部研修を実施する等、職員が理解を深める機会を設けてほしい。
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書や契約書に関して十分に説明を行い、理解・納得されて署名をもらっている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回ゆとり庵通信を送り近況報告を行っているが、相談等は電話連絡をしている。	日頃から、利用者の要望や意見を聴くように努めている。利用者が欲しい物や食べたい物を一緒に買い物に行く等、利用者の意見を取り入れている。家族には、面会時や電話、月1回の事業所だよりで状況報告し、意見や要望を聴くようにしている。家族が利用者の好きな食べ物やアルコールを持参したり、外出や外食希望の際は家族と一緒に出かけられている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1度会議を開き意見交換をしている。	管理者は、朝礼や会議、個別で職員の意見を聴くようにしている。会議前に議題を職員に伝え、意見が出やすくなるように工夫している。水分補給のために寒天やゼリーを活用する等、職員の意見を取り入れている。新入職員等には、管理者から積極的に声かけをするようにしている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがい等、各自が向上心を持って働けるように努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用および勤務について、労働基準法に基づきコンプライアンス順守している。	職員の採用は法人で行っている。年齢や性別等の理由で採用対象から排除していない。定年はあるが、希望あれば就労継続は可能である。資格取得希望者には、研修の案内や勤務の配慮を行う等、職員の成長を促し、働きやすい職場環境を整えるよう努めている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	年に1度、全職員に人権研修を実施 常日頃から全職員が周りの人への尊重する気持ちを大切にもらえるように声がけに気をつけている。	年1回、人権に関する内部研修を実施し、全職員が参加し、知識を深めている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護職員必須研修は、外部講師研修を実施。 また、行政等が実施する外部研修にも積極的に参加している		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行政等が実施する外部研修に参加（特に管理職）地域のごみ拾い活動、施設見学なども定期的実施している		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御家族からの情報収集し、グループでのコミュニケーションを取り、安心して会話が出来る様に工夫している。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	以前よりも面会は出来る様にはなったが、御家族の困っている事、不安・要望等にはしっかり向き合い耳を傾けて連絡を取っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを開始する上、本人・家族の希望をふまえ支援を行うが、他の支援を求めている時は他の事業所の紹介の助言を行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、就業にはまず利用者様へのあいさつから始め、コミュニケーションを大切にしている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、担当の職員が家族様へのお便りを書いており、利用者様の様子を知らせている。少しでも安心して頂くように心がけている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの為面会中止にしていたが、5月より面会が出来る様になったので、友人や隣近所の方が訪問されたりする時もあった。	利用者の馴染みの人や場所について、職員は利用者や家族から情報を得ている。知人との電話連絡は、必要に応じて支援している。海で仕事をしていた利用者を馴染みの海に連れて行ったり、車で外出時に馴染みの場所を通る等、馴染みの人や場所との関係が継続できるように、支援している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでは、利用者様の間に職員が入り話題を提供し、会話がはずみ笑顔、笑い声が出る様に明るいグループ作りをしている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後は、こちらから連絡することはないが、相談等がある時はプライバシーに気を付けて対応するようにしている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人様と会話しながらアセスメントを行う。	職員は利用者との日々の会話から入所前の暮らしについて聴き取っている。利用者からの聴き取りが困難な場合は、家族や入所前に関わっていた関係者から聴き取っている。申し送りや個人ファイルで情報を共有している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを行った上で、どうい暮らしをされて来られたか知り会話につなげる。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のミーティングや申し送りノート、月1回の会議で把握している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様全員に担当を配置している。それにより、目が行き届き責任を持つ事が出来る。	職員は1～2名の利用者を担当している。担当者は毎月、介護計画の実施状況をモニタリングしている。看護師が担当会議に参加し、医療情報や医師からの助言を伝えている。ケアマネジャーは利用者の意向を確認し、家族からは面談や電話で意見を聴き取っている。3ヶ月から6ヶ月ごと、または状況変化に応じて、介護計画を見直している。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌、記録、夜勤簿、日勤簿などで会議で話し合う。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍で出来なかった分、買い物、食事等行事に参加している。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の希望で散髪、近所への散歩、買物に出かけ楽しませている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様の異常、急変時家族へ連絡し、家族希望の病院に受診・搬送している。	利用者や家族は、契約時に協力医療機関について説明を受け、入所後のかかりつけ医を選択している。事業所は協力病院以外でも、家族や利用者の事情に応じて受診を支援している。家族が支援する際には受診先へ情報提供し、帰宅後に家族から受診結果や医師の指示を聴き取って情報共有している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師とは日頃より密に関わりを持ち、利用者様の日常の連絡報告など行っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中の利用者様の状況等を病院関係者・家族と共有し、早期退院が出来る様に連携を取っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の希望・思いを重視し、主治医と職員で利用者の状況を共有し家族に説明している。	契約時に看取りに関する方針を基に、家族に事業所の方針を説明し、同意を得ている。看取りケアが始まる際に、看取り介護計画書を交わしている。利用者の状態変化に応じて、主治医から家族に説明し、同意を得ている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当・事故発生時の対応を会議・研修を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導の下、近隣の方にも聞こえる様に大きな声を発する。	ハザードマップで水害危険区域になっており、水害時の避難先として、隣接する薬局の2階や、事業所の2階を想定している。避難訓練は年2回、契約している防災事業者の指導を受けながら行っている。備蓄品は防災マニュアルの備蓄品リストに従って整備している。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	目上の方に対しての言葉使いをし、幼児語や命令的、友達言葉は使わない様になっている。	プライバシー保護について研修を行っている。職員間で利用者について話す際には、氏名ではなく、イニシャルや居室の番号を使うことを統一している。入浴や排泄介助の際に同姓介助の希望がある際は、可能な限り対応している。バイタルや排泄、食事等の利用者の個人情報、訪問者の目に触れない場所に置くように徹底している。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者自身の口から希望や思いを話す事が出来る様にコミュニケーションを取り、傾聴している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のしたい事を見守り、一人一人のペースに合わせて対応している。音楽を聴かれたり話題を提供し会話をつなげている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期定期に散髪に来てもらう。利用者にあった洋服の組み合わせをしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に合った大きさや軟らかさを提供している。多く摂取してもらう為に声掛けを行っている。	朝食と昼・夕のご飯や汁物は事業所で作っている。昼・夕は隣の施設の厨房で調理したものが届けられている。ご飯茶碗や湯飲み、箸は自宅で使い慣れた物を使っている。月に2回程度、事業所で考えたメニューの食事を提供している。パン好きの利用者にはパンを用意する等、嗜好に配慮し、食事を楽しむことができるよう支援している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算をしてある食事を提供している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には本人様用のコップ、歯ブラシを使用してもらい習慣付けている。出来られない方は介助し、義歯の方は消毒をしている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレまで誘導したり、声かけしたりして自己にてトイレにて排泄される。車椅子の方は、スタッフが介助にて排泄してもらう。	利用者からの訴えやサイン、排泄の間隔等、利用者に応じて対応し、できるだけトイレで排泄できるよう支援している。トイレは引き戸で車いすでも出入りがしやすく、照明は人感センサーとなっている。トイレには「お手洗い」や「トイレ」と利用者の馴染みに応じた呼称での貼り紙を掲示している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロールで坐薬を使用したり、腹部のマッサージや手足の運動を行っている。水分補給が出来る様に工夫している。（ゼリー・アイス）		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	個々の体調に応じて施行している。汚染された時は、清潔保持の為入浴していただく様声かけを行う。	入浴日は水曜日・土曜日と設定されているが、通院や自身の都合で入浴日に入っていない利用者については入浴日を振り替えて対応している。職員2人で対応したり、福祉用具を活用することで、浴槽に入ることができている。利用者の希望に応じ、家族の協力を得て、自宅で使い慣れた入浴用品を引き続き使用している。	入浴の曜日を決めてしまわずに、利用者の生活習慣や希望等に合わせた入浴ができる体制づくりや工夫を期待したい。
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人に合った生活が出来る様心掛け、寄り添い声かけを行っている。季節に応じて衣類・寝具など調節している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病名はカルテで確認し、内服薬は処方箋で確認、誤薬がない様に薬箱を工夫しダブルチェックを行っている。個々に応じて、錠剤や粉にして飲んでいただいている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴を知り、その人に合った話題を提供し会話につなげている。好きな歌を聞いたり、体操などにも参加されるよう声かけを行う。食事の後片付けも手伝ってもらっている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の理解や協力を得、買い物、外出、外食など支援を行っている。	法人母体の医院やデイサービス、薬局が敷地内にあるため、敷地内を巡る遊歩道が整備されており、散歩は日常的に行われている。コロナ禍で外出行事は減っていたが、現在は少しずつ増えている。現在は買い物支援や、季節を感じる事ができる外出支援をしている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は事務所にて行っている。必要時は事務所に報告する。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の担当の介護職員が、月に1回家族様に写真や手紙を送っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の掃除、整理整頓は介護職員が行っている。温度・湿度管理は朝・夕記録している。施設内は季節ごとに工夫している。	事業所は民家風の戸建てで、木に囲まれた落ちついた穏やかな造りとなっている。リビングは吹き抜けで、広く感じられる。季節の花や絵画を飾り、季節を感じる事ができる。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中利用者様はリビングにて過ごされている。独りになられる時は居室にて過ごされる。（テレビなどみながら）		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は早出職員が掃除を行っている。衣類の整理・衣替えなどは担当職員が行っている。必要な物がある時は家族に連絡して対応している。	居室にはベッドやエアコンが予め用意されている。テーブルや椅子、テレビ、家族写真、飾り物等が持ち込まれ、居心地良く過ごせるよう配慮されている。室内は利用者の身体状況や動線に応じて、ベッドや家具等の配置がなされている。居室のドアは引き戸で、車椅子でも出入りがしやすい。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すり、建物内はバリアフリー、トイレにはお手洗いの紙を貼り、整理整頓を心掛けている。個々に合った介助・見守りを行っている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2／3くらいと		
				③家族の1／3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）		①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
			○	④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）		①大いに増えている		
			○	②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2／3くらいが		
				③職員の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が		
			○	②利用者の2／3くらいが		
				③利用者の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2／3くらいが		
				③家族等の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の目の付く所に掲げて共有し、一人一人が理念を確認する。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月1回地域のゴミ拾いに参加している。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は行事ごと案内を出し参加して頂いてたがコロナの為出来ていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度地域運営推進会議を行い報告や話し合いをしています。意見や質問を聞き、サービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月に1度の地域運営推進会議に参加して頂き情報交換を行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に1回研修を受け職員で改めて確認をしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	年に1回研修を受け職員で確認している。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	月1回の会議で議題として取り上げ理解を深めている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書や契約書に関して十分に説明を行い、理解・納得されて署名をもらっている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回ゆとり庵通信を送り近況報告を行っているが、相談等は電話連絡をしている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1度会議を開き意見交換をしている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがい等、各自が向上心を持って働けるように努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用および勤務について、労働基準法に基づきコンプライアンス順守している。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	年に1度、全職員に人権研修を実施 常日頃から全職員が周りの人への尊重する気持ちを大切にもらえるように声がけに気をつけている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護職員必須研修は、外部講師研修を実施。 また、行政等が実施する外部研修にも積極的に参加している		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行政等が実施する外部研修に参加（特に管理職）地域のごみ拾い活動、施設見学なども定期的実施している		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御家族からの情報収集し、グループでのコミュニケーションを取り、安心して会話が出来る様に工夫している。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	以前よりも面会は出来る様にはなったが、御家族の困っている事、不安・要望等にはしっかり向き合い耳を傾けて連絡を取っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを開始する上、本人・家族の希望をふまえ支援を行うが、他の支援を求めている時は他の事業所の紹介の助言を行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、就業にはまず利用者様へのあいさつから始め、コミュニケーションを大切にしている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、担当の職員が家族様へのお便りを書いており、利用者様の様子を知らせている。少しでも安心して頂くように心がけている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの為面会中止にしていたが、5月より面会が出来る様になったので、友人や隣近所の方が訪問されたりする時もあった。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでは、利用者様の間に職員が入り話題を提供し、会話がはずみ笑顔、笑い声が出る様に明るいグループ作りをしている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後は、こちらから連絡することはないが、相談等がある時はプライバシーに気を付けて対応するようにしている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人様と会話しながらアセスメントを行う。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを行った上で、どういう暮らしをされて来られたか知り会話につなげる。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のミーティングや申し送りノート、月1回の会議で把握している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様全員に担当を配置している。それにより、目が行き届き責任を持つ事が出来る。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌、記録、夜勤簿、日勤簿などで会議で話し合う。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍で出来なかった分、買い物、食事等行事に参加している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の希望で散髪、近所への散歩、買物に出かけ楽しませられている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様の異常、急変時家族へ連絡し、家族希望の病院に受診・搬送している。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師とは日頃より密に関わりを持ち、利用者様の日常の連絡報告など行っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中の利用者様の状況等を病院関係者・家族と共有し、早期退院が出来る様に連携を取っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の希望・思いを重視し、主治医と職員で利用者の状況を共有し家族に説明している。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当・事故発生時の対応を会議・研修を行っている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導の下、近隣の方にも聞こえる様に大きな声を発する。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	目上の方に対しての言葉使いをし、幼児語や命令的、友達言葉は使わない様になっている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者自身の口から希望や思いを話す事が出来る様にコミュニケーションを取り、傾聴している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のしたい事を見守り、一人一人のペースに合わせて対応している。音楽を聴かれたり話題を提供し会話をつなげている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期定期的に散髪に来てもらう。利用者にあった洋服の組み合わせをしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者にあった大きさや軟らかさを提供している。多く摂取してもらう為に声掛けを行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算をしてある食事を提供している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には本人様用のコップ、歯ブラシを使用してもらい習慣付けしている。出来られない方は介助し、義歯の方は消毒をしている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレまで誘導したり、声かけしたりして自己にてトイレにて排泄される。車椅子の方は、スタッフが介助にて排泄してもらう。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロールで坐薬を使用したり、腹部のマッサージや手足の運動を行っている。水分補給が出来る様に工夫している。（ゼリー・アイス）		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	個々の体調に応じて施行している。汚染された時は、清潔保持の為入浴していただく様声かけを行う。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人に合った生活が出来る様心掛け、寄り添い声かけを行っている。季節に応じて衣類・寝具など調節している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病名はカルテで確認し、内服薬は処方箋で確認、誤薬がない様に薬箱を工夫しダブルチェックを行っている。個々に応じて、錠剤や粉にして飲んでいただいている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴を知り、その人に合った話題を提供し会話につなげている。好きな歌を聞いたり、体操などにも参加されるよう声かけを行う。食事の後片付けも手伝ってもらっている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の理解や協力を得、買い物、外出、外食など支援を行っている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は事務所にて行っている。必要時は事務所に報告する。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の担当の介護職員が、月に1回家族様に写真や手紙を送っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の掃除、整理整頓は介護職員が行っている。温度・湿度管理は朝・夕記録している。施設内は季節ごとに工夫している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中利用者様はリビングにて過ごされてある。独りになられる時は居室にて過ごされる。（テレビなどみながら）		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は早出職員が掃除を行っている。衣類の整理・衣替えなどは担当職員が行っている。必要な物がある時は家族に連絡して対応している。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すり、建物内はバリアフリー、トイレにはお手洗いの紙を貼り、整理整頓を心掛けている。個々に合った介助・見守りを行っている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25, 26, 27）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の	<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいの	<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
			<input type="radio"/>	①毎日ある	<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある	<input type="radio"/>	④ほとんどない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20, 40）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38, 39）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：32, 33）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 （参考項目：30）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2／3くらいと		
				③家族の1／3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2／3くらいが		
				③職員の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2／3くらいが		
				③利用者の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2／3くらいが		
				③家族等の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		